東京国税局長賞

税に救われる

柏市立柏第二中学校　第三学年　山下　みなみ

十四年前、私は低出生体重児として生まれました。そしてまもなく呼吸が止まり、自発呼吸が難しくなってしまいました。私はすぐに隣の市の病院に移され、さまざまな検査をしたところ、くも膜下出血と内反踵足変形を発症しているという診断を受けたそうです。それから私は、ＮＩＣＵという新生児用の集中治療室で約三週間過ごしました。私の足は、関節がうまく繋がっておらず、この子は一生歩けないかもしれないとも言われていたそうです。また、くも膜下出血の発症は、知能の発達に影響を及ぼす可能性もありました。しばらく私の両親は、とても不安な日々を過ごしたそうです。母は、抱っこすることもできないままＮＩＣＵに入った私を、早くこの手で抱っこしたいと祈る毎日だったと言います。同時に、将来私に何かしらの障害が残ってしまうことを覚悟していたそうです。

しかし、私は今、身体や知能に問題を抱えることもなく、元気に生活することができています。それは、あの時に適切な治療を受けられたからだと思います。それらの治療や入院にかかる費用は、決して安いものではありませんでした。けれども、県からの補助によって、ほぼ全額を負担してもらえたのだと聞きました。その補助のお金こそ、税金だったのです。私はこのことを知り、税金には感謝しなければならないと思いました。もしも税金がなかったら、私は治療を受けられなかったかもしれない。今もこの足は動かないままだったかもしれない。大好きな運動も、思うようにできなかったかもしれない。そう考えると、税金に感謝せずにはいられません。

これまで私は、税金はなくてもいいのではないかと思っていました。しかしそれは違いました。税金がなければできないことも、きっとたくさんあるのだと思います。医療に関係して言えば、救急車が例に挙げられます。今は救急車を呼ぶと、無料で病院に搬送してもらえますが、税金がなかったら、高いお金を支払わなければいけなくなります。そうなると、緊急時でも金銭的な問題によって救急車を呼ぶことができない、という状況も起こり得るのではないでしょうか。税金は私たちの生活に欠かせないものだと実感しました。

税金がどのように使われているのか、普段はあまり知る場面がありませんが、自分たちの見えないところで税金に助けられている場面は多いのではないでしょうか。もちろん中には、税に批判的な意見を持つ人もいると思います。でも、税金が誰かへの助け舟となっているのは確かです。私も税金に助けられた人の一人だから、そう断言できます。この恩を返すために、私にできるのは、将来お金を多く稼いで税を納めることだと思います。納めた税は、巡り巡って自分や誰かのためになる。その意識を忘れず、困っている人のために税を納めようと思える大人になりたいです。